



**2011 AUTOBACS SUPER GT
Round 2 FUJI GT 400km Race
Race Report**

◇4月30日(土)~5月1日(日) 富士スピードウェイ(静岡県・小山町) コース全長 : 4,563m

・4月30日(土)

公式練習 09:10 - 10:55 | 公式予選 1回目 13:15 - 14:00 | SUPER LAP 15:00 - | 入場者数 : 24,000 人 |

・5月1日(日)

フリー走行 08:35 - 09:05 | 決勝 14:00 Start [66 Laps / 301.158 km] | 入場者数 : 36,000 人 |

D'STATION KeePer SC430



Drivers	Qualifying	Final
脇阪寿一 / アンドレ・クート	15 位	11 位



レクサスチームクラフトへ移籍し、心機一転臨む今シーズン、脇阪寿一 38 歳、新たなチャレンジが始まった。今季脇阪のチームメイトとなるのは、アンドレ・クート選手。同じレクサス陣営からの移籍組。この二人で、35 号車のステアリングを握ることとなる。また、チームも体を一新。新規チームと言っても過言ではない体制での参戦となる。レースを戦うことと共に、チーム作りも課題となることは必至だ。SUPER GT で勝利する事の要素に、チーム力と

いうのは必要不可欠。ドライバー二人が最後までたすきをつなぐ意味でもそうであるが、チーム力無しでは成立しないレースである。困難も多いだろうが、やりがいも見出すシーズンとなりそうだ。様々な意味でデビュー戦の意味合いが強い開幕戦である。

3 月 11 日に発生した東日本大震災の影響で、第一戦が延期、第二戦の開催も危ぶまれていたが、4 月 15 日に正式開催が GT アソシエーションから発表となり、SUPER GT 全大会が東日本大震災の復興支援大会となることがアナウンスされた。そのため、今般の第二戦が事実上の開幕戦となる。震災の影響で、レース開催前のテストが中止となっていたため、今回は金曜日にフリー走行が二回設けられる異例のスケジュールで進行した。

4 月 30 日(土)

○公式練習 | タイム 1'34.913 | 順位 : 12 位 | 天候 : 晴れ | コース : ドライ |

午前 9 時 10 分から開始された公式練習は、気温 16 度 / 路面温度 26 度、ドライコンディションのもと行われた。まず脇阪がコースイン。クルマのバランスをチェックしたのち、セッティングの微調整を続ける。その後、クート選手へドライバー交代。クート選手は、燃料を多めに積んだ決勝セットでロングランを担当。安定した周回を重ねる。富士用に準備したエアロパーツの調整に多くの時間を割き、タイヤの確認を行い終了した。



-脇阪コメント-

「走り始めからブレーキングでクルマの挙動が乱れるチョークに悩まされた。チョークとは、ブレーキング時にフロントの車高が下がりすぎて路面と車体の間にすき間が無くなり、空気が通りづらくなってしまい、車体の下部のダウンフォースが乱れる現象。フロントタイヤロックやリアのシフトロックの現象も出

た。これは3月に岡山でテストをした際のデータと、今回はじめて富士用に装着したローダウンフォース仕様の足回りのパーツや、富士用カウルのマッチングがうまく行かなかった事が要因。改善策は見つからず、現在模索している状況」

○公式予選一回目

| タイム 1'36.213 | 順位: 15位 | 天候: 晴 | コース: ドライ | 気温/路面温度 開始時 17℃/22℃
終了時 16℃/20℃ |



正午から行われたピットウォークでは、脇阪自身が発起人となっている東日本大震災への支援活動「SAVE JAPAN」に賛同するエントラントが多忙の中、募金活動を行ってくれた。

そして、午後1時から、公式予選開始。GT300クラスとの混走セッション、クート選手が先にコースイン。基準タイムをクリアすると脇阪にドライバー交代。こちらも難く基準タイムをクリア。その後GT500クラスの

10分間の専有セッション。脇阪がアタックドライバーを担当。セッション開始と同時にピットアウト、スーパーラップ進出を目指した。しかし、ピットアウト直後にピットロード出口手前でクルマがいったん止まってしまう。電気系トラブルが発生。なんとかエンジンをかけコースインするも、やむなく緊急ピットイン。この時点で残り4分。メカニックたちが懸命に修復を施し、コースに送り出すも残り1分。予選アタックは不可能な状況となってしまったため、装着しているニュータイヤの皮むきを行い、ピットに戻った。結果、決勝レースはGT500クラス最後尾からのスタートという非常に苦しい戦いを強いられることとなった。

-脇阪コメント-

「朝の時点でクルマもだいぶよくなりチョークが改善され、100Rでトラフィックに合うも1'34.9とまずまずの感触だった。アンダーステアの状況が変わらなかったが、予選の時間を迎えコースイン。しかし、そこでパワステにトラブルが発生した。こうなると昨今のGT車両は走行が非常に困難となる。悔しい思いでピットに戻りました。修復するもタイムアウト、予選をアタックする事なく、無念の結果となりました」

5月1日(日)

○フリー走行

| タイム : 1'45.377 | 順位 : 15 位 | 天候 : 雨 | コース : ウェット | 開始時 : 気温 15℃ / 路面温度 15℃



最後尾から追いつきの期待される一日が始まった。目覚めると、富士山の姿は真っ黒な雲に隠れ、朝からあいにくの悪天候、雨。富士スピードウェイでは、レインタイヤを装着しての走行となった。クート選手から先にコースインし周回を重ねた後、脇阪に交代。浅溝タイヤで決勝セットの確認を行った。

-脇阪コメント-

「アンダーステアに悩まされる状況。フロントのサスペンションをトライ。路面状況によって、タイヤの温まりに差が出る。タイム的にも、ライバルとの差は雨量が少なくなると縮まる。自分のステイントは浅溝のレインタイヤでチェック。しかし、走行時路面が乾き始め、フィーリングがなかなかつかみにくい状況。結局トライしていたサスペンションを元に戻した」

○決勝 / 66 Laps / 301.158 km

| 順位 : 11 位 | ランキング : - | 天候 : 雨 | コース : ウェット | 気温 13℃ | 路面温度 14℃ |

午後2時、フォーメーションラップ開始。クート選手がスタートドライバーを務め、脇阪は、後半のステイントを担当する。朝から雨は、容赦なく降り続き、グリッドについた頃には雨脚が強くなったこともあり、セーフティカー先導によるスタートとなった。5周を経過したところで、とうとうセーフティカーのランプが消えた。次の周から熱戦の火ぶたが切って落とされるサインである。6周目で実質的なスタートが切られると、タイヤの



温まりの悪いクルマがいきなりスピンするなど、波乱の幕開けとなった。クート選手は、1コーナーを無難にクリア、その後ベストラップを連発しながら、ポジションをあげていく。まず、オープニングラップ

を終えたところで1つポジションアップ。7周目には11番手、9周目には10番手。13周目には24号車を捉え9番手と順調にポジションアップし、そして21周目には、6番手まで浮上する。その後も安定したペースで周回を重ね、43周目5番手まで来たところで、ピットイン。給油とドライバー交代を済ませる。この頃、雨脚が弱くな



り雨粒が落ちていない時もあった事から、クラフト陣営は天候が回復すると読んだ。そこで、脇阪はインターミディエイトタイヤ（浅溝）を装着してコースインしたが、その直後に雨脚が強くなり苦しい戦いを強いられる。ほぼ全車がピットインを済ませた時点で8番手を走行、前を行く24号車を追いかける展開となる。残り10周を切った時点で雨脚がさらに強くなり、再びスピンするクルマがコース上の各所で出始め、走行が危険な状況。脇阪は、これ以上の浅溝タイヤでの走行は危険と判断し、深溝のレインタイヤに交換するため、緊急ピットイン。迅速なピットワークによって再びコースへ送り出される脇阪。11番手でコースに復帰し、これからペースをあげて追いついていこうという矢先に赤旗が提示される。雨量が増え、これ以上の走行は危険と判断されたためレースは突如中断、ホームストレートでの整列が指示された。レースはこの時点で成立となり、万事休す。レクサスチームクラフトは11番手でレースを終えることとなってしまった。状況を鑑みるとやむを得ないが、移籍後の初レースは非常に悔しい結果となった。

-脇阪コメント-



「残念ながら今週末はずっとトラブルが続き、久しぶりにまとまらないレースウイークだった。ローダウンフォースとなる富士で、フロントのサスペンションなど、いろいろとトライしていたが、タイヤとのマッチングなど、結局合わせ込む事、まとめる事が出来なかった。時間の無い中、元に戻して決勝に臨んだが、上位陣はタイヤ無交換のチームもあるなど、戦略等もまた参考にし、チーム全体としてこれからステップアップしていきたい。僕もエンジニアもチームスタッフもとても悔しい思いをした週末だと思うので、これをプラスのエネルギーに換え、次の岡山戦で鬱憤を晴らしたいと思う。このクルマには可能性を非常に強く感じたレースだったので、次戦は必ず前進し、東日本大震災で被災した方々への思いを乗せて力強く走ることを約束したい」

脇阪個人としてはチーム移籍に伴い、時には辛く苦しい時間も過ごし、ようやく迎えた今シーズン。開幕戦はほろ苦いデビューとなってしまったが、まだシーズンは始まったばかり。チームスタッフ一丸となって1つ1つの戦い・困難を乗り越えて行くことに期待している。真っ新しいチームであるがゆえに、何色にも染まる未知の可能性があるからだ。徐々に足元を固めつつも、常に挑んで行く姿にエールを送って欲しい。次戦は、延期となった第1戦となる岡山ラウンド。5月21-22日、岡山国際サーキットで開催される。